

令和6年度第1回印西市文化財審議会会議録

1. 開催日時 令和6年8月1日（木）午後2時～午後3時15分
2. 開催場所 印西市文化ホール 大会議室
3. 出席者 一島委員、滋賀委員、岡崎委員、酒井委員、高橋委員、外山委員
4. 欠席者 富田委員、石井委員
5. 傍聴者 0名（定員5名）
6. 事務局 生涯学習課 飯島課長、菅谷、根本、大関
7. 会議内容（すべて公開）
 1. 開会
 2. 会長あいさつ
 3. 議事
 - （1）令和6年度事業計画について
 4. その他
 - （1）吉高の大桜について（資料1）
 - （2）武西百庚申保全のための改修案について（資料2）
 5. 閉会

8. 会議録

1. 開会、2. 会長あいさつ
3. 議事
 - （1）令和6年度事業計画について《事務局説明》
資料をもとに令和6年度事業計画について説明

《委員意見》

委員：資料の標記で、1ページ目の、「○埋蔵文化財の保護事業」、「・道作1号墳発掘整理委託」となっているが、「道作1号墳発掘整理」で良いのでは。結果的に形態が委託である。また、委託の進捗情報はどのようになっているか。

⇒進捗状況は、調査結果をまとめるものであるが、予算の都合で、ようやく今年度から2カ年で実施する。公益財団法人印旛郡市文化財センターへ委託し、報告書刊行までを行う予定としている。

委員：いなざき獅子舞は縮小し実施していると聞いている。確認しておいてほしい。後継者不足も課題としてあるようである。

委員：旧永治小学校では、神楽を学び発表なども行っていたが、統廃合により現在は行われていない。

⇒永治小学校は、木刈小学校に統合されているが、現在は実施していない。神事であることも理由とされている。

鳥見神社の神楽では、本埜小学校の児童が、事業の一環で見学している。さらに舞手を他の学校から募集している事例もある。地域の考え方を尊重していく必要はある。

委員：以前聞いた話では、浦部の神楽は地元の長男という決まりがあったと記憶している。実施方法は、それぞれの考え方によると考える。外部からの意見をするのは難しい。

委員：現在、浦部の神楽はどのように実施しているのか。

⇒昨年の様子では、餅まきなども実施し子供達の参加もあった。天候が雨であったことは人出が伸び悩んだように思われる。

委員：千葉ニュータウン地区に住んでいる方で興味がある方もいると思う。見学ツアーなどを組んでも良いのではないかな。

⇒印西ふるさと案内人協会が実施している企画もあり、参加者も多いようである。

委員：東庄町の「笹川の神楽」を見学したが、印西市の神楽と、東庄町の水運の神楽では違いがある。

⇒獅子舞等の日本古来の伝統芸能は、高齢化している中で、国が補助金を交付し事業の一つに、子どもの育成事業がある。そのように、子供達へ継承していく必要があると市も認識している。

委員：子供達に対し、舞手と笛に分けて、笛だけでも習うことも良いのではないかな。

委員：冒頭の挨拶で、学芸員を3名採用したと言われたが、採用理由は、博物館構想があるからか。

⇒3年前に2名採用し、今年度3名採用している。博物館構想もあるが、市役所業務は専門性が高まっていることが採用した理由である。

委員：木下貝層貝化石採集観察会が盛況との説明があったが、近隣では行われていないが印西はとても重要な事業を行っていると思っている。市内の採集会場はどこで行っているのか。

⇒木下貝層のある木下万葉公園とは別の場所で実施。大森地区の私有地で所有者に許可を得て行っている。

委員：大分掘り込みが進んで枯渇していると思うが、まだ採集できるのか。

⇒大分掘り込みは進んでいるが、まだ大きな貝も出ているのでしばらくは実施できている。

委員：大原先生より寄贈していただき進めている、貝化石分類作業で、重要なものは今後の展示などに活用し、それ以外のものは、この採集会で積極的に活用すれば良いと考える。市内の物や、海外の物があるが、子供達に対し是非活用した方が良いと考える。

⇒どのように活用していくかも検討となっている。ありがたいご意見として頂戴する。

委員：指定文化財マップは是非作成していただきたい。一宮町が作成しているものは良い。多くの市町村のものを参考にしていただきたい。初めからパーフェクトのものは出来ないので、バージョンアップしていただければと思う。

⇒一宮町も含めた市町村が作成しているものを参考にしたいと思う。

委員：予算措置状況は。

⇒約 115 万で作成部数は 3,000 部を予定している。

委員：国土交通省と記憶しているが、補助金も活用してはどうか。

⇒確認してみる。

○意見質問については以上。

○議事（１）について承認をいただいた。

4. その他

【報告１】

（１）吉高の大桜について

《事務局説明》

- ・ 枯枝の状況がみられ、剪定を 6 月 21 日（土）に実施。
- ・ 状況は、主に北東側の枝の枯損が見られ、枝の状況を確認しながら選定を実施。
- ・ 剪定した部分には溶剤を塗布し、雑菌保護被膜を作った。
- ・ 剪定後、剪定後、幹部を中心に殺虫剤（スミパイン）を散布した。
- ・ 桜には一部キクイムシなどの害虫およびキノコやコケなどが付着しているため、これらが枯損の原因となっていないか、継続して観察する。
- ・ 剪定完了後、樹勢の弱まっている北東部をトレンチ掘削し、細根の状態を確認した。比較的大きめの根が枯死しており、何らかの原因によって根部の生育が阻害されている可能性が高い。トレンチ調査等を行い、状況を確認する必要がある。
- ・ 次年度以降、継続して経過観察やトレンチ調査等を実施し、桜の状態を維持するように

協力していく。次年度の経費について、予算前にもう一度打合せを行うこととなった。
報告は以上。

《委員意見》

委員：剪定業者はどこか。

⇒樹木医から構成されている、NPO法人樹のいのちを守る会千葉支部である。樹木の専門の方々が実際に作業している。保存会である、吉高の大桜を守る会とNPOとの契約を取り交わし行っている。

委員：保存会とNPOとの契約と理解して良いか。

⇒良い。市は経費の一部を保存会へ補助金を交付している。

委員：桜の木にクビアカツヤカミキリが発生している事例が多い。そのような情報も収集し、今後も注意していく必要がある。

⇒6月の剪定時点ではクイムシの確認は出来ている。クビアカツヤカミキリについても経過観察したい。

委員：樹齢は何年か。

⇒約300年と言われているが、樹木医の調査では、もう少し古くなる可能性がある。生き物なので寿命もあるが、貴重であり、市にも重要であると考ええる。

委員：今まで、今回のような剪定はしているのか。

⇒現在の保存会が管理している間では行われていないようである。枯枝が広範囲となっており、開花時に樹形が変わったことで見学者等から声が出るのが予想される。

【報告2】

(2) 武西百庚申保全のための改修案について

《事務局説明》

・市指定史跡「武西の百庚申塚」の庚申塔群を長期的な安定設置を保つための2つの改修案を想定した。

・前回いただいたご意見を基に案を作成している。一つは、盛土の上にコンクリートの埋め基礎を施し庚申塔を設置する。埋め基礎をする理由として、風雨による不老沈下及び安定した地盤を確保するもの。埋め基礎をすることで、コンクリートの基礎がむき出しにならないよう、景観を守りつつ土手を守ることを目的としている。

・もう一つは、土手にコンクリートの基礎を入れ、高さを変えずに行うこととしている。

・コンクリートの幅については、引き続きご意見をいただきたいと考えている。

《委員意見》

委員：確認だが、土手は当時からあるものか。

⇒当時からあるものと思われる。

委員：土手に埋め込むと壊してしまうことになるので、盛土をして行う方法が良いかと思う。

委員：土手の状況はどうか。

⇒雨で土が流れ、その影響で、石造物が倒れていることもある。土が流れないように盛土する案で進めて行くことが良いのではないかと考えている。

委員：掩体壕の種子吹付の効果はどうであったか。同様の工法を施工してはどうか。

⇒維持管理して行く中で、効果が出てくる場所であるが、雑草の力も強いのでうまく管理する必要がある。効果はあると考える。

○意見質問については以上。

5. 閉会

会議資料

会議次第、令和6年度事業計画について、吉高の大桜について、武西百庚申保全のための改修案について

令和6年度第1回印西市文化財審議会会議録は、事実と相違ないことを証する。

令和6年10月28日

印西市文化財審議会委員

滋 賀 秀 實